

## 距離による地域区分とその構造について

秋田高専 ○正員 折田仁典  
秋田高専 学生 田子秀徳  
秋田高専 学生 三浦弘広

### 1 はじめに

地域とはひとりの知的概念と、人為的に構成された概念とがある。一般的に我々が地域と呼ぶものには無頓着に一定の広がりも境界もまた地域が持つ何らかの内容、すなわち特性を予想しておく必要はない。とくに区域計画を策定するにはこの地域の概念を正しく理解し、地域構造を掌握した上ではじめの地域固有の分析、計画、開発なども可能となるということも充分認識する必要がある。地域構造の把握とは換言すれば地域区分にありと云えよう。本解析ではこのように認識を促す距離概念を適用して地域区分を試みた。また grouping された地域についての性格出現をもめわしく検討した。なお解析対象地域は秋田県が市町村である。

### 2 解析方法

解析対象地域として秋田県において昭和45年、50年の2時点にわたり地域構造を表現する指標として人口、農業、産業など5指標を用いて主成分分析法を適用した。この結果得られた主成分得点を用いて各地域間の距離を求め、この値によって grouping を行った。距離概念は次のとおりである。  
いま地域A, Bの主成分得点を  $\hat{z}_{A1}, \hat{z}_{A2}, \dots, \hat{z}_{Ar}$ ,  $\hat{z}_{B1}, \hat{z}_{B2}, \dots, \hat{z}_{Br}$  とするとA, Bの地域間の距離は  $D_{AB} = \frac{1}{\sqrt{r}} (\hat{z}_{A1} - \hat{z}_{B1})^2 + \dots + (\hat{z}_{Ar} - \hat{z}_{Br})^2$  と求められる。計算において  $r = 3, 5, 10$  の場合について距離値を1.0, 3.0, 5.0, 7.0, 10.0 とし各々の場合について検討した。

### 3 解析結果

昭和45年、50年の2時点ともにほぼ5つのグループに分けられた。このグループをGI, GII, GIII, GIV, GVとするほどの特性は次のようである。

GI, 都市機能を有する地域; 県内各都市がこのグループに入り、50年になると馬場、角館、田代湖町などが加わる。都市機能を表わす第1主成分得点が高く、第3次産業人口が多く、資本金率も人口比が高い。地域における中核的役割をはたしている。

GII, GIのグループに準ずる地域; GIグループより第1主成分得点は低いが、第2次産業人口比は低く第3次産業人口比は比較的高い。

GIII, 農業地域; 第1, 3次産業人口比が高く、また出稼者が多い。農業一本で成り立っている地域。

GIV, 過疎地域; 第1主成分得点が負のものが比較的多い。第1次産業人口比はあまり高くないが人口減少率が4~7%と比較的高い。

GV, 過疎地域; 第1次産業人口比が高く、また出稼者も多い。過疎化が進められている人口減少率に相当する地域の大部分がこのグループに入る。県内における減少率の激しい地域である。

このグループにそれぞれに地域を新系列にみると地域変化が顕著な地域も見つけられる。またこのグループにも属さない地域もある。例えば大塚村、小坂町などがそれである。これらの地域はその発展過程が停滞したためこのよう結果になったと思われる。最後に総括御信尊頂戴しました秋田大学清水浩志郎教授に心から感謝の意を表わします。

(参考文献) 折田、清水「地域特性から見た地域構造に関する基礎的研究」東北開発研究VOL.13 1977

折田仁典「地域構造の変容に関する2, 3の考察」秋田高専研究紀要1977号。